

穏やかな気候に育まれた伊達の産業

伊達市の気候

気候は、噴火湾に面しているため、日本海から津軽海峡を通過する対馬海流の影響を受け四季を通じ温暖。初霜は平年11月と道内で最も遅く、根雪の量も極めて少ないなど積雪寒冷の北海道においては恵まれた気象条件を有していることから「北の湘南」と称されています。

*気象庁札幌管区室蘭地方気象台 2020 データ／伊達地域より



【藍の花】藍の畑が一面に広がる篠原さん宅前。この風景が見られるのは北海道ではここ、伊達だけ。



北黄金町藍栽培農家
篠原一寿さん

藍には様々な効能があると言われています。たとえば、防虫効果・殺菌

藍の効能と利用法

藍畑は現在、家の前など3カ所に計6ヘクタールあり、年間約15トンを収穫しています。一番難しいのは、収穫した藍を冬季の4ヶ月に水を掛け自然発酵させる技術で、水を掛け温度管理しながら切り返す作業を繰り返していきます。



COLUMN

伊達の新名産・いちご

伊達市は東日本大震災から約2ヶ月後の2011年5月中旬、姉妹都市・宮城県亘理町のいちご農家を対象とする被災農家受け入れ事業の実施を決めました。東北一のいちご産地だった亘理町は、震災による津波でいちごの栽培が難しい状態となつたため、6世帯のいちご農家の受け入れを行いました。温暖な気候を持つ伊達市で有珠山の見える土地に最新型のハウスを建設し、新たな名産品となることを目指しています。

効果に優れているといわれ、肌荒れ・冷え性やあせも・かぶれ・水虫などの予防に藍染めの下着や靴下、包帯が重宝されています。また、解毒や鎮静剤などの薬効もあるとされ、昔の旅人は藍の葉を常備し、食あたりや熱冷ましに用いていたそうです。

さらに、藍に含まれる抽出成分が美白作用や抗酸化作用、抗アラネ作用(皮膚をなめらかにする)などの働きを持つとされていることから、化粧品にも用いられています。